



Sun Fire™ 6800/4810/4800/3800 システムソフトウェア ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 816-5323-10
2002年6月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2002 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、Java、OpenBoot、Sun Fire、Sun StorEdge は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 Systems Software Release Notes Part No: 816-2972-10 Revision A
-----	---



Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムファームウェア 5.13.0 ご使用にあたって

このマニュアルでは、Sun Fire™ 3800 および 4800、4810、6800 サーバーのファームウェアバージョン 5.13.0 に関する最新情報と新しい機能および変更された機能について説明します。説明する事項は、次のとおりです。

- 新しい機能
- システムコントローラコマンドの変更
 - 新しいコマンド
 - 変更されたコマンド
- 一般的な情報
- Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの既知の制限

新しい機能

ファームウェアバージョン 5.13.0 で新しく追加された機能を次に示します。

- システムコントローラ (SC) フェイルオーバー

メイン SC およびスペア SC が装備され、ファームウェアバージョン 5.13.0 がインストールされている Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムでは、デフォルトで SC フェイルオーバーを使用できます。この高可用性システム構成では、一方のシステムコントローラがすべてのシステム資源を管理する「メイン」SC として動作します。もう一方のシステムコントローラが、「スペア」として動作します。

何らかの状況によりメイン SC に障害が発生すると、SC フェイルオーバーが使用可能な場合は、メイン SC からスペア SC への処理の引き継ぎ (フェイルオーバー) がオペレータの介入なしに自動的に実行されます。スペア SC は、メイン SC の役割を引き継ぎ、SC のすべての作業を継続します。

また、一方のシステムコントローラからもう一方のシステムコントローラへの強制的なフェイルオーバーを手動で行うこともできます。自動および手動フェイルオーバーについては、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド』を参照してください。

- 保守プロバイダが使用するために改良されたシステム診断

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 サーバーでは、重要なシステムコンポーネントの実行中の履歴を自動的に取得できるようになりました。この履歴情報には、コンポーネントの取り付けおよび電源、温度、パリティエラーなどに関するデータが含まれます。保守プロバイダは、この情報を使用して、診断時およびサポート時にハードウェアの動向を追跡することができます。

- ファームウェアの互換性

5.12.x のファームウェアがインストールされたシステムボードは、ファームウェアバージョン 5.13.0 と互換性があります。使用しているボードのファームウェアの互換性は、`showboards -p version -v` コマンドを使用して確認できます。

コマンドで表示される情報から、各ボードのファームウェアがシステムコントローラで動作している ScApp のバージョンと互換性があるかがわかります。ファームウェアの互換性の確認方法については、ファームウェア 5.13.0 に付属する `Install.info` ファイルおよび『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』の `showboards` コマンドに関する説明を参照してください。

システムの管理を簡単にするには、すべてのシステムボードのファームウェアを同じバージョンに更新し、ドメインではできるだけ速やかに新しいバージョンのファームウェアを動作させることをお勧めします。ドメインのファームウェアは、`setkeyswitch off` および `setkeyswitch on` を実行することによって動作します。システムファームウェアの更新については、ファームウェアに付属する `Install.info` ファイルを参照してください。

システムコントローラコマンドの変更

ファームウェアバージョン 5.13.0 では、次に示すシステムコントローラコマンドが新たに追加および変更されました。これらのコマンドの詳細は、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』のコマンドの説明を参照してください。

新しいコマンド

setfailover	SC フェイルオーバーの状態を制御する
showfailover	SC フェイルオーバーの状態を表示する

変更されたコマンド

次の表に、バージョン 5.13.0 で変更されたシステムコントローラコマンドの概要を示します。

表 1 システムコントローラコマンドまたは動作の変更

コマンド	変更点
password	冗長システムコントローラ構成で、ファームウェアバージョン 5.13.0 が動作している場合は、メイン SC のプラットフォームシェルのパスワードが、スペア SC のパスワードにもなることに注意してください。
setupdomain	次のパラメタが変更されました。 <ul style="list-style-type: none">• Trap Hosts ドメインの SNMP (Simple Network Management Protocol) トラップホストの名前または IP アドレスを指定できます。SNMP エージェントは、SNMP のデフォルトのポート番号 (162) のトラップホストにトラップを送信します。デフォルトのポート番号のほかに、任意の異なるポート番号を使用できます。トラップホストは、host[:port] の形式で指定します。• reboot-on-error デフォルトの設定は true です。この場合、システムコントローラがハードウェアのエラーを検出すると、ドメインが再起動されます。このパラメタが false に設定されている場合、システムコントローラがハードウェアのエラーを検出すると、ドメインは一時停止します。ドメインの自動再起動については、5 ページの「一般的な情報」を参照してください。• error-policy この新しいパラメタのデフォルト値は、diagnose です。この場合、ドメインのコンポーネントに問題が発生すると、診断メッセージが表示されます。もう 1 つのパラメタ値である display に設定すると、診断メッセージが表示および報告、記録されます。

表 1 システムコントローラコマンドまたは動作の変更 (続き)

コマンド	変更点
setupplatform	<p>次のパラメタが変更または追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • セキュリティーに関する新しいパラメタ Enable telnet servers パラメタは、システムコントローラへの telnet アクセスを制御します。Idle connection timeout パラメタは、システムコントローラへの telnet またはシリアルポート接続がアイドル状態になった場合のタイムアウト時間を制御します。 • SNTP に関する新しいパラメタ SNTP server パラメタは、SNTP (Simple Network Time Protocol) サーバーを指定します。SNTP サーバーは、各システムコントローラによって管理されるローカルのシステムクロック間のずれ (相違) を自動的に追跡し修正します。 • SNMP に関する変更されたパラメタ Trap host パラメタは、SNMP トラップホストの名前または IP アドレスを指定します。 • SC フェイルオーバーに関する新しいパラメタ Enable SC failover パラメタは、SC フェイルオーバーを再び使用可能にします。Logical Hostname or IP Address パラメタは、動作中のメイン SC を指定します。
showboards	<p>次の情報が新たに表示されるようになりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SC ボードの状態 (Main または Spare) • showboards -p version -v による、各ボードのファームウェアの互換性に関する情報
showdomain	<p>setupdomain コマンドで設定されたパラメタ値が表示されます。次のパラメタが、新しく追加または変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Trap Hosts • reboot on error • error-policy
showplatform	<p>setupplatform コマンドで設定されたパラメタ値が表示されます。次のパラメタが、新しく追加または変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SNTP server • Trap Hosts • Enable SC failover • Logical Hostname or IP address • Enable telnet servers • Idle connection timeout
showresetstate	<p>showresetstate -v -f URL を実行すると、指定した URL にドメインの CPU レジスタの概要が書き込まれます。保守プロバイダは、この情報を使用して、障害および問題を分析することができます。</p>
showsc	<p>SC フェイルオーバーおよびクロックフェイルオーバーの状態を表示します。</p>

一般的な情報

ファームウェアのアップグレードおよびダウングレード

バージョン 5.11.x または 5.12.x のファームウェアをバージョン 5.13.0 にアップグレードする方法については、ファームウェア 5.13.0 に付属する `Install.info` ファイルを参照してください。また、このファイルには、バージョン 5.13.0 のファームウェアをバージョン 5.11.x または 5.12.x にダウングレードする手順についても記述されています。ファームウェアをダウングレードする場合、ダウングレードの手順にシャーシの電源の再投入が含まれていることに注意してください。



注意 – 冗長システムコントローラ構成の場合は、`Install.info` ファイルの記述に従って、まずスペア SC のファームウェアをバージョン 5.13.0 にアップグレードしてから、メイン SC のファームウェアをアップグレードしてください。

ネットワークスイッチに接続されているシステムコントローラのファームウェアのアップグレード

スパニングツリープロトコル (STP) が使用できるネットワークスイッチにシステムコントローラが接続されている場合、このシステムコントローラのファームウェアをバージョン 5.11.x または 5.12.x から 5.13.0 にアップグレードするには、まず、システムコントローラとネットワークスイッチの間に一時的なハブを設定する必要があります。その後、`flashupdate` コマンドを実行してファームウェアをアップグレードしてください。

ハブを設定したら、`Install.info` ファイルの記述に従って、適切なアップグレード手順を実行します。ただし、メイン SC をアップグレードする場合は、ファイルに記述されている手順ではなく、次の手順を行います。

1. メイン SC の ScApp および RTOS を更新します。

```
schostname:SC> flashupdate -f URL scapp rtos
```

`URL` には、5.13.0 のフラッシュイメージが含まれているディレクトリへの URL を指定します。

2. メイン SC で ScApp および RTOS がアップグレードされたことを確認します。

```
schostname:SC> showsc
```

showsc コマンドの出力には、ScApp のバージョンが 5.13.0、RTOS のバージョンが 23 と表示される必要があります。

3. システムボードを更新します。

```
schostname:SC> flashupdate -f URL system_boards
```

次のように指定します。

URL には、5.13.0 のフラッシュイメージが含まれているディレクトリへの URL を指定します。

system_boards には、CPU/メモリーボードおよび I/O アセンブリをすべて指定します。

ファームウェアのアップグレードが完了したら、ハブを取り外します。ハブについては、ご購入先にお問い合わせください。

ドメインの自動再起動

setupdomain コマンドの reboot-on-error パラメタのデフォルト値は、true に設定されています。システムによってドメインのハードウェアエラーが検出されると、次の処理が行われます。

- 重大なハードウェアエラーが発生したことを示すメッセージの表示
- ドメインの自動再起動

エラーによるドメインの自動再起動は、最大 3 回まで行われます。3 回目のエラーによる再起動のあとは、ドメインは一時停止し、エラーによる再起動は行われません。また、ドメインのパニックによるエラーが発生しても、このエラーによる自動再起動は行われません。ドメインでハードウェアエラーが発生した場合は、手動でドメインを再起動せずに、解決に役立つ情報をご購入先に問い合わせてください

reboot-on-error パラメタが false に設定されている場合、ハードウェアエラーが検出されると、ドメインは一時停止します。その後、ドメインを手動で再起動 (setkeyswitch off および setkeyswitch on を実行) する必要があります。

SC フェイルオーバー後のクロック信号の確認

SC フェイルオーバーが発生し、システムコントローラのホットプラグ (電源が切断されたシステムコントローラを取り外し、交換用システムコントローラを挿入する) が必要な場合、システムボードへのクロック信号が新しいメイン SC から発信されていることを確認してください。クロック信号の発信元を確認するには、`showboard -p clock` コマンドを使用します。

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの既知の制限

S_taskLib_NAME_NOT_FOUND が表示され、DHCP に失敗する (バグ ID 4628965)

`flashupdate` を実行して、システムコントローラのファームウェアをバージョン 5.13.0 から 5.12.6 にダウングレードすると、`flashupdate` 操作が取り消され、次のメッセージが表示されます。

```
dhcpcBind() failed: S_taskLib_NAME_NOT_FOUND
```

回避策:

1. `setupplatform` コマンドを実行して、`Network settings` パラメタを `static` に変更します。
2. システムコントローラを再起動します。
3. `flashupdate` を実行して、システムコントローラのファームウェアをダウングレードします。
4. `setupplatform` コマンドを実行して、`Network settings` パラメタを `DHCP` に変更します。

古いパスワードを消去したあとに、セキュリ ティーパスワードの設定に失敗する (バグ ID 4633060)

OBP のセキュリティーパスワードを設定するために次の手順を行うと、このバグが発生します。

1. パスワードおよびセキュリティーモードを設定します。
2. ドメインをリセットします。
3. `setenv` を使用して、セキュリティーパスワードを変更または消去します。
4. セキュリティーパスワードを、手順 1 で設定した以前のパスワードに変更します。

回避策: セキュリティーパスワードを消去したら、以前使用していたパスワードとは別の新しいセキュリティーパスワードを指定します。

正しい構成に対して RTOS がエラーメッセージを 表示する (バグ ID 4635885)

デフォルトのルートサーバーまたは DNS サーバー (またはその両方) が構成されていないと、問題が発生しているように解釈できる次のメッセージが RTOS プロンプトに表示されます。

```
Invalid default route ("0.0.0.0"); ignoring
```

回避策: このメッセージは無視してください。

システムコントローラの POST 診断で RIO Ethernet テストに失敗すると、システムコント ローラの再起動が無限に繰り返される (バグ ID 4644974)

回避策: システムコントローラの POST 実行中に、スペースバーを押して POST メニューを表示し、オプション「0」を選択してシステムコントローラの RTOS に戻ります。オプション「0」を選択すると、POST が省略されます。

showplatform で出力されるドメインの状態が正しくない (バグ ID 4647377)

パニックによってドメインが OBP 状態になっても、showplatform の出力では、ドメインで Solaris オペレーティング環境が動作していると示されます。

回避策: ありません。

I/O アセンブリに対する disablecomponent は、完全にはサポートされていない (バグ ID 4651114)

disablecomponent コマンドを使用して、I/O アセンブリのポート 0 を使用不可にすると、ボード全体が使用不可になり、ボードのすべてのコンポーネントがドメインで使用できなくなります。ただし、I/O アセンブリのポート 1 だけを使用不可にすることは可能です。

回避策: カードが装着されている個々のスロットを使用不可にします。

メイン SC およびスペア SC をアップグレード/ダウングレードすると、NVCI が同期化されない (バグ ID 4653120)

メイン SC およびスペア SC のファームウェアをバージョン 5.13.0 にアップグレードしたあとで、バージョン 5.12.x または 5.11.x にダウングレードし、再び 5.13.0 にアップグレードした場合、スペア SC の構成は有効ですが、メイン SC の構成は無効になります。

回避策: システムコントローラのファームウェアをバージョン 5.13.0 から 5.11.x または 5.12.x にダウングレードして、その後ファームウェアを 5.13.0 にアップグレードする場合は、5.13.0 にアップグレードしたあとでシャーシの電源を入れ直す必要があります。各ドメインのキースイッチをオンにする前に、電源を入れ直してください。

setfailover on コマンドで、フェイルオーバーの状態が enable but not active と表示される場合がある (バグ ID 4656519)

回避策 : 次の手順を行います。

1. メイン SC またはスペア SC で、setfailover off を実行します。
2. メイン SC およびスペア SC の両方で、フェイルオーバーが使用不可になっていることを示すメッセージを探します。showfailover コマンドを実行して、フェイルオーバーの状態を確認します。
3. メイン SC またはスペア SC で、setfailover on を実行します。
4. メイン SC およびスペア SC の両方で、フェイルオーバーが使用可能で動作していることを示すメッセージを探します。showfailover コマンドを実行して、フェイルオーバーの状態を確認します。

FrameManager の接続が断続的に切断される (バグ ID 4656908)

システムコントローラで FrameManager への接続が失われる場合があります。showplatform コマンドで報告される、ラックのファントレイおよび冗長転送ユニット (RTU) の状態が、適切に更新されていない可能性があります。

回避策 : システムコントローラを再起動して、状態を更新してください。

リセットおよび SC フェイルオーバーが同時に行われると、SC フェイルオーバー後にシステムコントローラがハングアップする (バグ ID 4662431)

回避策 : SC フェイルオーバーが発生したら、ドメインのリセットや、setkeyswitch 操作を行わないでください。showfailover コマンド以外のシステムコントローラコマンドは実行しないでください。

5.13.0 のボードを 5.12.6 のドメインに動的再構成 (DR) すると、(reboot コマンドによる) 再起動に失敗する (バグ ID 4673352)

動的再構成 (DR) によって、5.13.0 ファームウェアが動作しているシステムボードを 5.12.6 ファームウェアが動作しているドメインに追加すると、ドメインの (reboot コマンドによる) 再起動が失敗します。

回避策: 次のいずれかを行います。

- DR を使用してボードをドメインに追加したあとで、setkeyswitch off および setkeyswitch on を実行してドメインを再起動します。ドメインを (reboot コマンドによって) 再起動しないでください。
- システムボードのファームウェアを 5.12.6 にダウングレードし (ファームウェアのダウングレード方法については、Install.info ファイルを参照)、その後 DR を使用してボードをドメインに追加します。setkeyswitch off および setkeyswitch on を実行して、ドメインを再起動します。

フェイルオーバー後に、新しいメイン SC へのクロックの切り換えに時間がかかる (バグ ID 4676081)

SC フェイルオーバーが発生すると、新しいメイン SC へのクロックの切り換えに 10 分以上かかることがあります。

回避策: クロックを新しいメイン SC に切り替えるには、新しいスペア SC の電源を切り、再び入れます。障害の発生したシステムコントローラの電源を切ったときに、クロック位相が合っていないためシステムコントローラを安全に取り外せないことを示すメッセージが表示された場合は、システムの停止時間を計画して、障害の発生したシステムコントローラを取り外します。

フェイルオーバー後に、新しいスペア SC のフェイルオーバーの状態が enable but not active と表示される (バグ ID 4678108)

SC フェイルオーバーが発生すると、新しいスペア SC の状態が enable but not active と表示される場合があります。この場合、SC フェイルオーバーは使用不可と表示される必要があります。フェイルオーバー後は、メイン SC およびスペア SC の両方で、フェイルオーバーは使用不可と表示されるはずですが、

回避策: スペア SC で、`setfailover off` を実行します。スペア SC では、フェイルオーバーの状態が使用不可と表示されます。

ScApp が電源装置に電力が供給されていないと示す場合にも、電源装置の LED が点灯する (バグ ID 4678341)

`showboards` コマンドの出力によって、システムコントローラが電源装置に電力が供給されていないことを示している場合にも、電源装置の LED は装置に電力が供給されていると示します。

回避策: 電源装置の LED が緑色に点灯 (電源が供給されていることを示す) していても、電源装置の電源を切って装置を取り外してから、再び取り付けてください。ただし、通常の場合でコンポーネントの LED が緑色に点灯している場合は、システムからコンポーネントを取り外さないでください。

RFE (機能拡張要求)

自動 `setkeyswitch off` のあとに、システムコントローラがハングアップする (RFE 4454599)

システムコントローラの手動リセットには、影響がありません。

回避策: 次の手順を行います。

1. ネットワーク接続 (`telnet`、`rlogin` など) を介して、動作中の各ドメインに接続します。
2. 可能な場合は、ドメインを停止します。
3. Sun Fire システムの電源を切り、再び電源を入れます。

システムボードが POST に失敗しても、ボードの LED 障害インジケータが点灯しない (RFE 4454623)

回避策: プラットフォームシェルから `showlogs` または `showboards` を実行して、障害が発生したシステムボードのエラーおよびテスト状態を表示します。

ホスト ID および MAC でのソフトウェアライセンスの問題 (RFE 4492051)

ホスト ID および MAC アドレスの現在の割り当て方法は、使用中の物理ドメイン (A、B など) に基づくため、ホストライセンスを持つソフトウェアは実行できません。ハードウェア障害によってドメインの変更が必要な場合、ホストライセンスを持つソフトウェアは起動できません。

回避策: システムハードウェアを再構成すると、必要なドメインをサポートできるようになる場合があります。ご購入先にお問い合わせください。

1 つの I/O アセンブリの障害によって起動時に障害が発生する (RFE 4502247)

I/O アセンブリは単独ではテストできません。I/O POST を実行したときに、I/O アセンブリの障害によってドメインのハードウェアが一時停止され、起動処理全体が停止されます。これによって、I/O アセンブリの障害を認識することができます。

回避策: `deleteboard` を使用して、ドメインから障害の発生した I/O アセンブリの割り当てを解除します。`setkeyswitch on` を使用してキースイッチをオンに設定して、障害の発生したボードを使用せずに再起動します。`deleteboard` コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラ コマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

メインシステムコントローラで日付を変更して SC フェイルオーバーを行うと、ドメインの日付 に影響を及ぼす (RFE 4663142)

SNTP サーバーが構成されていない場合に、メイン SC およびスベア SC で異なる日付が設定されていると、SC フェイルオーバーによってドメインの日付および時刻が変更されます。

回避策 : 次のいずれかを行います。

- 両方のシステムコントローラで SNTP サーバーを構成して、正しい日付および時刻を設定します (詳細は、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラ コマンドリファレンスマニュアル』の `setupplatform` コマンドの説明を参照)。ドメインシェルで `setdate` コマンドを実行するか、Solaris オペレーティング環境レベルで `rdate(1M)` を実行して、ドメインに正しい日付および時刻を設定してください。
- 両方のシステムコントローラで `setdate` コマンドを実行して、正しい日付および時間を設定します。

```
schostname:SC> setdate -r datehost
```

`datehost` には、時刻サーバーとして使用する遠隔システムを指定します。